



母が残してくれた “家族”の絆を大切に

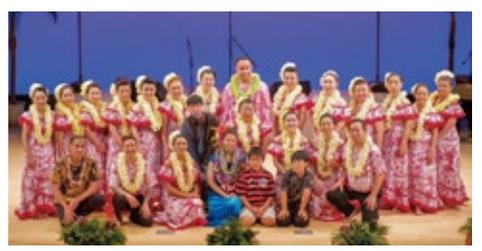
中理江さん(41)
札幌教会

ウクレレののどかなメロディーに合わせ、そろいの練習を着たフラダンサーたちが緩やかなステップを踏む。優雅にリードするのは、札幌市で「北の星フラ教室」を主宰する中理江さん。習い事感覚の女子高生から、健康維持が目的の七十代の人まで、生徒の顔ぶれは多彩で、「みんな、家族や親戚のように仲がいい」という。

飲食店を経営して女手一つで育ててくれた母・小森規衣さんが、ハワイの民族舞踊・フラの講師を始めたのは、中さんが十歳の頃。七年後、講師で生計が立つようになると、中さんは、苦手な酒を無理して飲んでいた母を「フラが助けてくれた」と喜んだ。自身も中学生で練習を始め、芳洲女学院情報国際専門学校卒業後に教室運営に加わった。二〇〇七年、リウマチを患った規衣さんから教室を引き継ぐため、ハワイに渡り、カラニ・ポツオマイヘアラニ師の指導を受けた。

「フラは、自分を生かしてくれている世界への感謝の祈りです。歌手と奏者、共に踊る仲間は家族で、調和が大切。けれど、あなたは『私は上手です』という心で、一人で踊っている。あなたも家族として踊ってください」。そんな師匠の厳しい指摘に自身を省み、価値観を覆された。同時に、他者を尊び調和を重んじるフラの精神が、立正佼成会の信仰四代目として学んできた仏性礼拝の精神に通じると感銘を受けた。

一昨年の夏、大病を患っていた規衣さんが他界した。母に見てもらいたかった教室発表会の数日前のことだ。悲しみに暮れる中さんをフラの“家族”が支えてくれた。「母は、フラを通して私にたくさんの“家族”を残してくれました。この縁を大切に、教わったことを多くの人と分かち合ってフラの魅力を伝えていきます。それが、私の使命です」



北の星フラ教室
〒062-0904
北海道札幌市豊平区豊平四条3-3-2
電話 080-1976-3918

*立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
4月1日から上記HPでもこの記事がご覧になれます。